

認定資格の意義を考える

～「タスク」をこなす中での認定資格の活かし方～

◎山崎 貴子¹⁾公益社団法人 石川勤労者医療協会 城北病院¹⁾

令和3年10月1日より、法改正によるタスク・シフトシェアとしての臨床検査技師の業務で追加された行為は、検体採取関連で2項目、生理機能検査で4項目、静脈路確保関連で4項目となった。以前より、病棟・外来で採血業務を行っている施設はある一方、採血業務以外の「タスク」を行っている施設は現状では少ないのではないかな？

令和6年4月1日から、厚生労働省より「医師の働き方改革」が開始され、時間外労働時間の上限規制の適用により、医師の働き方を見直すこととなった。

このような状況の中で、認定資格の意義を考え、資格を活かすことで、診断に必要な検査項目の提案や、適切なコメントができる技師が増えることは医師の業務軽減に繋がると考える。

当日は、症例を交えて皆さまと一緒に、認定資格の意義・活かし方を考えてみたい。

【症例】 65歳 男性

〔現病歴〕

カテーテル関連血流感染症（CRBSI；catheter related blood stream infection）で、当院へ紹介入院となる。

〔入院時検査所見〕

〈生化学〉				〈血液一般〉			
TP	4.6	g/dL	Fe	30	μg/dL	WBC	1.38 ×10 ⁹ /L
Alb	1.4	g/dL	UIBC	94	μg/dL	Ne	11.5 %
AST	22	U/L	Ferri	3593	ng/mL	Mo	25.0 %
ALT	18	U/L	VB12	1547	pg/mL	Eo	7.1 %
LD	127	U/L	葉酸	21.9	ng/mL	Ba	0.6 %
T-Bil	0.2	g/dL				Lym	55.8 %
Cr	0.41	mg/dL				RBC	1.47 ×10 ¹² /L
BUN	10	mg/dL				Hb	5.2 g/dL
CRP	1.67	mg/dL				HCT	15.3 %
						MCV	104 fL
						MCH	35.2 g/dL
						MCHC	15.3 %
						PLT	388 ×10 ⁹ /L

連絡先：076-251-6111（内線2270）